

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 新居浜市立大生院中学校
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他（例：小中高一貫 _____）
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む
所在地 〒792 - 0060 _____
愛媛県新居浜市大生院 1070 番地の 2
E-mail ohjj-ad@esnet.ed.jp
Website http://ohjoin-j.esnet.ed.jp/cms/
幼児児童生徒数 男子 48名 女子 64名 合計 112名
幼児・児童・生徒の年齢 13歳～15歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「伝え合い学び合う生徒の育成 ～人・地域・自然との関わりを通して～」を活動テーマとして、ESDの実践を通し、子どもたちが将来にわたって人や自然とのつながりを大切にする態度の育成を目標としている。

具体的には、①防災に係わる活動、②環境に係わる教育、③ジェンダー平等、④地域の伝統文化、文化遺産に係わる学習を行った。

①防災に係わる活動

地域と小学校との連携を進め、総合的な学習の時間で校区防災訓練を行った。防災意識を高めるため、大学教授を招聘し防災講演会を開いたり、さまざまな形態で避難訓練を実施したりした。また、災害を想定し、地域の危険個所を探すフィールドワークを行い、それをまとめて防災マップを制作した。地域の方々から昔の災害などの話を聞いたり、制作した防災マップを配布し

たりするなど交流を進めていった。

②環境に係わる学習

学校で定期的に資源回収を行っている。また、年に一度、生徒が一軒一軒訪問しながら資源の回収を行っている。資源回収で得た利益で絵本を購入し、地域の保育園へ進呈することで、地域貢献につなげている。また、少年の日記念行事として「耐寒歩行」を実施し、約 34 km を 2 年生が地域の方々や保護者と共に歩き、環境や人との関わりを学んだ。他者と協力する態度や進んで参加する態度の育成にもつながっている。

③ジェンダー平等に係わる学習

児童福祉センターと連携し、特別活動の時間に全校生徒対象で「いのちの授業」を実施した。赤ちゃんに触れ合うことで、命の尊さを学ぶと同時に、育児について母親から説明を聞き、女性だけでなく男性も参加し、協力しながら育児を行う SDG s のゴール 5 「ジェンダー平等」について考えるきっかけとなった。

④地域の伝統文化、文化遺産

2 年生がふるさと学習として、銅山峰登山を実施している。新居浜南高校ユネスコ部の部員やボランティアガイドの説明を受け、地域の産業遺産である別子銅山の遺跡を見学した。見学に関連し、総合的な学習の時間に、別子銅山に関わった人物について調べ学習を行った。先人の偉業に触れ、栄枯盛衰を感じ、SDG s のゴール 1 1 「持続可能な都市」について考えていこうとする課題意識も育成した。



① の写真（防災フィールドワーク）



② の写真（地区別資源回収）



③ の写真（いのちの授業）



④ の写真（ふるさと学習）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input checked="" type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input checked="" type="checkbox"/> 8. その他(全校集会)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

○ユネスコスクールウェブサイト ○文部科学省ウェブサイト ○新居浜市防災マップ 平成 25 年 4 月新居浜市市民部防災安全課発行
--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

防災学習を実施するにあたり、総合的な学習の時間の指導計画を見直し、ESD を核とした課題解決型の学習過程を重視した教育課程となるように編成した。また、指導方法も検討し、教師主導でなく、生徒が主体となって課題を見出し、検証し、調べ、課題解決に向かうアクティブラーニングを導入した。その結果、防災学習では、画一的な課題でなく、それぞれの地域による異なった課題があり、生徒たちがそれぞれの課題と向き合い、フィールドワークによって実際に調べ、自分たちで避難経路や危険場所を考え、マップに仕上げ、地域の方々へ提案していった。また、教科の授業においても、社会科、理科、技術・家庭科などで防災や震災に関連する学習内容を横断的に指導している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

ESD 主任を中心に、年間指導計画、ESD カレンダーに基づき、各学年で細案を練り、実行していった。また、昨年度から引き継いだ事業や、学校や地域の伝統的な行事については、次年度以降も継続して実施できるように、関連機関との繋がりを大切にしている。また、数年来、いろいろな活動を行うにあたり、行事も多岐に及んできているので行事の精選を行うなど、限られた時間の中で、有効的に学習を進めていく工夫を行っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

例年行っている生徒、保護者、教職員対象の学校評価アンケートを実施し、その質問の中で、ESD と関連が深い、以下の3項目を抽出し集計した。「目標をもって意欲的に授業に取り組んでいるか。」「人の生き方について考え、豊かな心を育てようとしているか。」「あいさつや礼儀はよく身に付いているか。」

肯定的な意見は、生徒 94%、（昨年度 93%）保護者 85%、（同 79%）教職員 100%（同 98%）となり、昨年度より数パーセントは各項目で上がっている。引き続き、今後もユネスコスクールとして活動の質を上げ、学校・地域の特性を生かし、生徒が自主的・自立的に取り組める教育活動の推進を図り、保護者や地域にも活動の様子を伝えるため、情報発信にも努めていきたい。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

防災マップと防災の心得を記したオリジナルファイルを地域の各家庭へ配布し、学習の成果を発信した。地域の方から、お礼状をたくさん頂き、地域の方との交流も深まり、防災への啓発活動にもつながった。また、学校公式のウェブにより、日々の学校生活を発信している。折に触れて ESD の活動も掲載しており、保護者の方々にも活動の様子を伝えることができ、活動の趣旨などの理解も進んでいる。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

コミュニティ・スクールの導入に向けて準備を進めており、地域との結びつきも深まっている。防災教育においては校区防災訓練学習を毎年行い、小中の連携をはじめ、消防団、自治会、公民館と幅広く交流し、活動も成熟期にきている。また、愛媛大学から教授を招聘し、防災講演会を実施した。地域学習では、県立新居浜南高校のユネスコ部の協力を得、地元の産業遺産について現地で説明を受けた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

地域との交流を進めているが、ユネスコスクールとの交流についてはまだ実施されていない。今後は、同じ活動を行っている学校との交流や、国際理解を深めるため、海外の学校との交流を計画していきたい。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき(特に強調したい)内容(例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化)(200字程度)

※チェック事項 2-5 に対応

現在進めているコミュニティ・スクールへの準備で、地域との繋がりを深めていく中で、ESD教育をはじめ、ユネスコスクールの活動は、地域との連携、人の繋がりが不可欠である。今回取り組んだ防災学習、ふるさと学習では、生徒が主体的に地域へ足を延ばし、交流を進めた結果、防災マップという形で成果を残せ、地域から頼られる存在となった。そのことは、生徒、教師にも自信となり、ますます活動を広げようとする意欲となった。

(3) 平成30年度の活動計画(200~400字程度)

○防災学習

防災マップの見直し、フィールドワーク、小中合同防災訓練学習を継続して実施。

○ふるさと学習

銅山峰登山に併せ、県立南高校ユネスコ部の協力のもと、産業遺産の見学。地元の偉人調べ。

○ジェンダー平等

「いのちの授業」の実施。

○環境学習、持続可能な生産と消費

資源回収、地区別資源回収、耐寒歩行を継続して実施。

これらの分野を核に、新聞を利用した教育活動(NIE)を取り入れ、学習を進めていく。また、他のユネスコスクールとの交流も計画していく。